



都城国際交流協会会報

MIA NEWS

ミア ニュース

編集発行: 都城国際交流協会
〒885-8555 都城市姫城町6-21
都城市役所 国際化推進室内
電話 0986-23-2295
FAX 0986-23-3223
http://miyakonojo-mia.com/
E-mail mia@btvm.ne.jp

「居場所を探す旅」

～都城工業高等学校ALT マシュー・グマボンさんからの記事をご紹介します～

「あなたの出身はどこですか？」この質問は誰でも何度も聞いたことがあると思います。単純な質問に見えますが、たまに答えはそんなに簡単ではありません！答えるにはまず、自分に「私の居場所はどこですか？」と尋ねます。ある人にとって、答えに辿り着くのは一生の長旅ですが、「居場所を探す旅」の途中で重要な発見と想像以上の冒険があります！

私の名前はマシュー・グマボンです。現在、都城工業高等学校のALTとして勤めていますが、自分の「居場所を探す旅」について皆さんと話したいです！

皆さんにとって恐らく、居場所は生まれた故郷ではないか？私はアメリカのニューヨーク市に生まれましたので、それでは私は「ニューヨーク人」でしょうか？でもどうやってその市に生まれることになったのでしょうか？生まれた故郷より、居場所は両親の出身地？私のお母さんとお父さんは1980年代にフィリピンからアメリカに移住し、ニューヨーク市で看護師のキャリアを始めました。その都市で両親が会ってから私ができました。ならば私は実は、フィリピン人でしょうか？でも両親の出身は一つの場所ではないかもしれません！お母さんの方では、家系図に書いてある家族の系統が主にフィリピン系ですが、枝の一つには「山下」の名を冠する家族がいます！ただし、その家族は遥か昔に本家から離れたことがわかりました。家族の謎の一つですが、日本にもルーツはあるらしいです！これで改めて、「私の居場所はどこですか？」を問います。



マシューさん(右)とご両親

国系や出身が複数の方々アメリカでは非常に普通です！私の場合、アジアから移民した両親のいるアメリカ人はよく「Asian American (アジア・アメリカン)」と呼ばれています。東(アジア)と西(アメリカ)の間に存在することで「スプリット・アイデンティティ」(解離性同一性と似ている感覚)を実感し、「アイデンティティ・クライシス」(本当の自分は誰との精神的ショック)を経験することが多い。生まれた故郷

のアメリカ人と一緒にいるべきか？ルーツのあるアジアにいたべきか？両方が望ましいですが、どちらか「統一する」ために、一つを選ばないといけないと感じます。残念ながら、どちらを選んでも外見や喋り方で仲間はずれになる恐れがあり、完全に統一できないと思ってしまいます。長年にわたり、自分でもこの感情の中に迷ってしまいました。

とうとう大人になり、事情が変わり始めてから「自分の居場所を探す旅」がスタート！2020年、私は大学を卒業し、米海軍工廠の軍艦工学者として勤め始めました。米海軍は世界中で活動するため、仕事で様々な地域に派遣されました。この働いていた時期に以前よりも旅行ができ、人と出会い、異文化について知ることができました。私の認識を大きく変えた経験の一つは人生初のホームステイです。実に凄い家族と一緒に暮らすことができました。その家族は当時の先生の知り合いです。私は簡単な日本語しかできないし、ホストファミリーもあまり英語ができなかったです。それでも、今まで経験したことがない程の親切さで、私のことをありのままで受け入れてくれました。出会った瞬間から、家族の一部と感じました！今でも人生の中で重要な経験としてよく思い浮かべます。



米軍艦「エイブラハム・リンカーン」



日本のホストファミリー

あれから米海軍軍艦工学者としての仕事が終わり、JETプログラムのALTとして再び来日しました。日本の先生たちやスタッフ、また他の「居場所を探している」JET参加者の優しさに改めて驚きました。これで初めて「居場所はどこにあるか」の大ヒントに思い至りました。「居場所」は望む所にあります！生まれた故郷、両親の出身地、見た目、また他の方が付けたラベルは関係ありません。少しの時間と努力、また途中で出会った皆さんの優しさで、「居場所」はどこにでもあり、あとは見つけることだけです！今までの旅に出会った方と通った場所に感謝しています！私の旅は続きますが、都城市で「居場所」を今までより近くに感じています！





「メロディーで結ばれる親子」

～都城市モンゴル国際交流員 ソヨルマーさんによるモンゴル紹介～

小さいときおばあちゃんは、「遊牧民は、卒業証明がない職業で、かと言って誰でもできる職業ではない。一人前の遊牧民になれるまでは、人情と経験が大切です。遊牧民の業務時間帯は朝から晩まで、しかも一年間のうち休日がないのが特徴だよ。」とよく言っていました。

また、「遊牧民の作業内容を季節ごとに細かく分類し研究したら、大学の一つの学部ができるくらい面白い業界だよ。」と言っていました。当時、小学生だった私が、その言葉の半分しか理解できてなかったことを、大人になって改めて把握したところでした。伝統的な遊牧民の文化を大切に思うおばあちゃんの、私たちに伝えたいことの奥深さに常に感心しております。

このように皆様と母国の文化のお話をするときも、おばあちゃんやおじいちゃんの貴重なお言葉を頼りにすることが多いので、心強い気持ち半分、感謝の気持ちが半分になります。

さて、いよいよ今月紹介したい内容に移りたいですが、皆さん、このタイトルをみて、どんなことを思い浮かべたでしょうか。実は、この会報が皆様の手元に届くころモンゴルの遊牧民は、出産したばかりの家畜の世話の真っ最中で、一年間の中で最も忙しい時期となっています。

今回の記事の主人公は“ラクダ”です。ラクダは、モンゴルの主な家畜である羊、山羊、牛、馬の中でもっとも心が優しい家畜と言われています。

ラクダは、出産のときの辛さと痛みが原因で生まれたての子ラクダを嫌がり、乳を飲ませたがらないなどの感情をみせます。動物であれ、家畜であれ、人間であれ共通して生まれたばかりの赤ちゃんに母親の愛情と初の母乳以外に望



馬頭琴奏者と親子ラクダ

むものがないというのは、言うまでもないことでしょう。

このような可哀そうな子ラクダを、早く喜ばせてあげるために、遊牧民の人がラクダに対する言葉～ソウグ、ソウグ～と言って演歌のメロディーで歌ってあげます。歌を聴くうちに、嫌がっていた親ラクダが歌に癒され、心が優しくなり、大きな目からボロボロと涙をこぼしながら、母性本能が増してきて、乳を飲ませてくれます。もし、このような歌でも、乳を飲ませてくれない場合は、周辺地に住んでいる馬頭琴を弾く人を特別に招待し、演奏をしてもらいます。

一度このような感動的なシーンで繋がった親子ラクダには同じようなことは起こらないと言われるので、人間も家畜もほっとする一時です。

この儀式がモンゴルの13個目の無形文化遺産として、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。



Aussie Bites (オーストラリアを、ひとかじり!)

～都城市オーストラリア国際交流員 ジョージによるオーストラリアの紹介～



クレイドル・マウンテンとセント・クレア湖



本土に行くよりもずっと遠いかもしれませんが、景勝の地タスマニア州では、美味しい海鮮料理と温かい人達が溢れています。ここで一か所お薦めするなら、やはりタスマニア州中心から少し北西にあるクレイドル・マウンテンです。デボンポート市から1時間半、ホバート市から4時間半位離れてい

ます。クレイドル・マウンテン＝セント・クレア湖国立公園は1600平方キロメートル以上広く、いくつかのハイキングコースがあります。都会の喧騒と雑踏から離れ、自然を楽しみたいなら、ここが一番です！

協会情報

◆令和4年度 都城国際交流協会総会について

令和4年度都城国際交流協会総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月号でお知らせいたしましたとおり中止とし、書面決議とさせていただきます。

団体会員及び一般会員(賛助会員の特別会員(外国人)と、学生会員を除く)の皆様へ、5月末をめどに資料を送付させていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

問合せ: 都城国際交流協会事務局
電話 0986-23-2295
E-mail mia@btvm.ne.jp

インフォメーション
～他団体からのお知らせ～

都城市からのお知らせです。

◆都城市「やさしい日本語」版ホームページより
【がいこくじんじゅうみんのみなさんへ
To foreigners】ぼうさいがいどをつくりました。

都城市に住む外国人の方のための防災ガイドを作りました。多言語自動翻訳以外に、やさしい日本語で情報を発信しています。災害はいつ起こるか分かりません。災害に備え、お知り合いの外国人の方にお知らせください。

<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/site/easy/44716.html>

問合せ: 都城市国際化推進室
電話 0986-23-2295

E-mail intl@city.miyakonojo.miyazaki.jp



編集部より

たまに山登りをすると、いろんな花を目にすることができます。これからの時期、えびの高原では「ノカイドウ」という珍しい花を見ることができます。薄い桃色の花で、世界でもえびの高原にしか自生していないとか。

ただ、気がかりなのはゴールデンウィークの天気予報。今年は見れるかな… [福重]

前回は新年度の御挨拶でお休みしましたが、今回から全国ぶらり旅コメント(自称)スタートします。

今回は【埼玉県】にちなんだものを調べてみました。

首都東京に近いのに都会っぽくないなどの理由から、「ダサイたま」と呼ばれたり、東京と埼玉のバトルをコミカルに描いた映画が流行ったりしています。

そんな印象の【埼玉県】ですが、奈良時代の「万葉集」に「前玉・佐吉多万(さきたま)」という呼び名で登場しているほど、とても歴史が古く、神聖な呼び名なんだとか。

また、埼玉県川口市では、市人口の6%を外国人住民が占めている多国籍タウンとしても有名です。

40年ほど前に一度訪れたことありますが、年数が経ちすぎて印象としては記憶に残っておりません… [西畑]

少しずつ海外渡航に対する規制が緩和されつつありますね。私はまだ海外に行ったことが一度もなく、一度は行ってみたいという国がいくつかあるのですが、国際化推進室に配属になってからは行ってみたい国がどんどん増えてきています。とは言え、さすがにまだ海外旅行は難しいので、まずは旅行雑誌で予習するところから始めました。早く海外旅行に行ってみたいものです。 [川内]

今月のモンゴル紹介のコーナーでラクダについても書きました。コメントもその続きです。ラクダは二年に一回出産するため、頭数はもっとも少ない家畜と言われています。モンゴルでは、双子のラクダが縁起の良い出来事を告げてくれるシンボルとなっていて、双子が生まれた遊牧民の家畜が減ることがなく無事に成長しもっと頭数が多くなると言われています。 [ソコ]

5月21日、二十四節気の8番目「小満」を迎えます。この日から、中国の多くの地域では夏の暑さを感じるようになります。また、この

「小満」の名称には、中国文化の知恵が詰まっていると言われています。二十四節気を見ると、「小暑」の後は「大暑」、「小雪」の後は「大雪」、「小寒」の後は「大寒」となっていて、「小満」に限っては、「大満」はありません。急がず休まず、全てにおいて完全無欠を求めることはしないという中国の古代の人々の「生活哲学」がそこに反映されていると言われています。食事は腹七分、お茶はコップに七分目と言うように、どんなことでも「少し足りない」程度がもっともいいというのは、古代の人々が私たちに伝えてくれている知恵かもしれません。 [銭]

3年ぶりにオーストラリアに帰ります！4月27日から5月10日の2週間なので、恐らく今、このコメントを読んでいる間、私は友達と再会し、もしくは初めて姪っ子と出会っているところかもしれません！パスポート更新がギリギリ間に合い、ワクチン証明書や入国流れ、手続きなどなど、準備すべきものが今の時点で(4月20日)まだ多いです。何よりもお土産はまだ揃っていない！私はあれやこれを見ると「これでいいかな？喜ぶかな？」との心配が湧いて、考え過ぎて進まない優柔不断なタイプですが、取るべき行動は知っています。とりあえず何か買わないと！少し心配があっても、何も持っていないのは一番良くないでしょう！ [ジョージ]

五月五日は、こどもの日、端午の節句。また今年は立夏にもあたります。新緑の中、すがすがしい季節ではありますが、すぐに暑い夏がやってきます。数年前から月に2～3回妻と神社参りをするのが習慣になっています。どちらかと言えば、お供をしているというのが正しいかもしれません。これまでは、「家内安全」や「大願成就」など直接自分に関係のあることだけご祈願していたように思います。次回どこかの神社にお参りに行った折には、もっとグローバルに「世界平和」をご祈願したいと考えています。 [渋谷]

このMIA NEWSがお手元に届くのは コロナ禍になり、3回目のゴールデンウィークが明けた頃ですね。皆様はいかがお過ごしになりましたか。国内旅行は「県民割」に加えて地域ブロック割、海外旅行は渡航者への規制緩和など、少しずつ行動範囲を広げられるようになってきましたね。できる限りの感染対策をして、思いっきり満喫できるといいですね。 [穴井]